

経済学部国際経済学科 20 周年記念号の発行に寄せて

経済学部長 酒井重喜

熊本学園大学経済学部国際経済学科は、1990年(平成2年)に経済学部第二の学科として開設されました。本年2010年をもって開設20周年を迎えます。国際経済学科にとって成人式を迎えたこととなります。皆さんとともにこの成人式を祝いたいと思います。ただ、この20年の内外の激動を思い起こすと感慨を覚えざるを得ません。開設前年の1989年に昭和が終わり平成の世になりました。同年には消費税が導入され、直後の参議院選挙で社会党が自民党に逆転勝利をしました。翌90年には東証株価が暴落しバブルの崩壊を告げました。また世界情勢の激変もありました。89年にベルリンの壁が撤去され、91年にはソビエト連邦が消滅し冷戦の終結を見ることになりました。同年に湾岸戦争があり冷静終結後の世界に不安定要因がなくなったのではないことを思い知らされました。

こうした歴史的転換期に産声を上げた国際経済学科ですが、文部省への学科設立申請書では、「前身である東洋語学専門学校(昭和17年設立)からの永い伝統の上に立ち、多くの国際交流の実績を踏まえつつ、九州において初めての国際経済学科を開設する」と高らかに謳っています。その後20年間に、教員数は11人から20人の間で変動しましたが、その中に中国・韓国・ミャンマー・アメリカ出身の外国人教員を含む国際色豊かな教授陣を擁してきました。学生定員は、最高時250名でしたが現在は100名となっています。これまでの卒業生総数は3344名に上り、県内外でさらには海外で有為な働き手として活躍しています。その一端は、経済学部が本年作成したリーフレット「多士済々の先輩達」に示されています。

国際経済学科は、経済学の基礎をしっかりと学習しながら、英語・中国語・韓国語など外国語の習得に力を入れ、さらに夏期休暇を利用した「国際事情研修」と「インターナショナル・インターンシップ」を行ってきました。とくに「国際事情研修」は本学科にとって大きな取り組みであり、国際交流室の全面的バックアップを受けて、同時多発テロの年を除いて毎年実施してきました。本年の場合、ユニテックニュージーランド大学、上海外国語大学、韓国外国語大学の3校に総数32名の学生を送り、無事、研修を終えて帰学しました。まだまだ、「国際事情研修」をはじめカリキュラム上改革すべき点は多々あり、本学科の教育力向上にこれからもたゆまぬ努力をしていかなければなりません。

教育力の基礎は何と言っても各教員の研究力にあることは言うまでもありません。この「経済論集記念号」に寄稿された諸論文は、国際経済学科の研究力を示すものです。今後この地点から一層発展すべく研鑽し、国内外の経済の激動を敏感に受け止めそれと基礎的経済学との柔軟な試行錯誤的往復運動を通した研究に邁進していかねばと、20周年に当たって改めて決意するしだいです。

さる6月26日に、国際経済学科20周年記念の行事として、慶応大学名誉教授大山道広先生をお招きした講演会、本学科元教員の木曾順子フェリス女学院教授をはじめ本学科ゆかりの方々をお招きした座談会、およびレセプションを行いました。大山先生のご講演の内容および開設記念座談会は、本記念論集に掲載してあります。遠方より来て頂き示唆に富むご講演をして頂きました大山先生に改めてお礼申し上げます。なつかしい木曾先生始めゆかりの方々もお忙しい中有り難うございました。

最後に、本論集の編集に当たられた伊東維年教授、金栄緑准教授にお礼を申し上げるとともに、寄稿して頂いた諸先生にお礼を申し上げます。

2010年10月1日